



題字 井口 文章  
再刊 第224号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2017

みんなでつくる  
錦城高校新聞

# 見つける! 君の錦城 Style

## クラブで魅せる新入生歓迎会

4月10日(月)、第一体育館で新入生歓迎会が行われた。13の委員会と40の部活・同好会が個性豊かにそれぞれの活動を紹介した。1年生諸君! 気になる部活や同好会に、気軽に見学に行ってみよう。

### 大迫力の合唱で歓迎

体育学芸委員長の小筆陸太くん(3B)は「錦城は勉強が忙しいけれど、部活に入れば最高の仲間を得られ、部活の魅力が語り、新入生歓迎会が始まった。恒例の吹奏楽部、室内楽部の伴奏と、54回音楽クラス



吹奏楽部・息がピッタリの華やかなドリルステージで新入生を魅了する

からの選抜メンバーによる「ハレルヤ」の合唱が体育館に響く。力強い男子の低音と、選抜メンバーによる「ハレルヤ」の合唱がオープニングを飾る



選抜メンバーによる「ハレルヤ」の合唱がオープニングを飾る

### 映像での活動紹介

プロジェクトを使った映像でのクラブ・委員会紹介では、楽しい生徒会の紹介に始まり、どの紹介映像もユーモア溢れる発表で、1年生は魅了されていた(新聞委員会については2面を参照)。特に毎年好評の映画研究部は、CGを使ったドラマ作品の紹介や後夜祭の映像で今年も1年生を驚かせていた。



体操部の息の合った演出に大勢の拍手が沸き起こる

個性豊かな実演での紹介。実演によるクラブ紹介では1年生を圧倒させる工夫が凝らされ、どの部活も見応えのある内容となった。フットサル部は、部員が園児、メイド服、全身ストッキングなどのコスプレをして、パスやシュートをして見せた。体操部のタンプリングでは、去年はやった「恋」などのBGMに合わせて倒立やY字バランスを全員で揃えて披露し、踏切板を使って回転やひねりなどを見せた。大技が決まるたびに歓声や拍手が沸き起こり、立ち上がりは演技に見とれている1年生もいた。



静かな空気の中、弓道部が見事に矢を射る

弓道部は、弓道の基本である射方八節を部員の動きに合わせて説明した。実際に巻戻しに弓を射る実演をすると、会場から大きな拍手が沸いた。

## 「大英自然史博物館展」へ取材に行きました!

### 英国外初公開「至宝」の数々

3月17日(金)、上野の国立科学博物館(以下科博)で特別展「大英自然史博物館展」報道内覧会が開かれた。プロの報道陣が集まる中、川越東・都立西と本校編集部、計3校の高校生新聞記者が招待され、内覧会に参加した。



この特別展イチオシ! 1億年以上前の始祖鳥の化石

今回の展示ではイギリスの大英自然史博物館が誇る80万点の収蔵標本の中から、世界的にも貴重な「至宝」のコレクション約370点を

選び、展示している。同館は伝統的に主要所蔵品の貸し出しを控えてきたため、初めての世界巡回展だという。出品される展示物は動植物化石、鉱物など多岐にわたり、すべて英国外初公開だ。

本展は「せつかつくならば自然史の流れが理解できる構成にしたい」との考えから、工夫を重ねながら2年もの準備期間を経て今回の開催に至った

### 若者に「本物」を見てほしい

科博に勤める研究者であり動物研究部長の倉持利明さんは、科学史の発展に大きく貢献した人々について説明してくれた。ロバート・スコット率いる英国の南極探検隊は1901年、南極点に到達するまで丁寧な植物の化石採集をしたが、彼らは帰途途難した。遺体と共に本国に持ち帰られた化石の中には、後に大陸移動説を証明する重要な手助けとなったものもあった。命の危険を冒してもなお彼らは収集に情熱をかけ、科学史に貢献した。倉持さんは将来博物館で働きたいと望む学生に向けて「自分の専門はもちろん、

色々なることを学ぶことが非常に大切」と話す。本企画展の総合監修者である科博副館長の篠田謙一さんも「イギリスは伝統ある科学の国。そこで発展してきたものを支え、多くの学説を証明してきた『本物』の品の数々を特に若い人にはしっかりと見てほしい」と語った。

大英自然史博物館展は6月11日(日)まで開催される。科博は2年生の校外学習の見学場所の一つ。ぜひ足を運んでみてはいかがだろうか。(湊)

## 事故を防ごう! 春の交通安全運動

4月12日(水)、7時30分〜8時10分の登下校時間に陸上部と小警察署が、錦城付近の交差点で交通安全運動を行った。陸上部は活動が3回目の参加となる。部員は黄色いタスキをつけて旗を持ち、横断歩道の前で歩行者を誘導した。



横断歩道で陸上部が生徒を誘導

右折車と接触することも多いという。たとえ信号が青でも車が止まってくれるか確認するよう話した。伊勢さんは「信号は必ず守ってちゃんと一時停止をするようにしてください」と強調した。

「ルールを守るということ自分を守ることです。人が見ている、見ていないに関わらず守ってほしいです。それが大人につながるっていいことになりませんか? これからもマナーを守って安全に登校しよう。」(運)

## むらさき草

新入生は昨日から宿泊研修。慣れない電車通学など、まだまだ大変だと思ふ▼電車といえば、いすみ鉄道を知っているだろうか。房総半島を横断するかつて千葉県いすみ市の大原と上総中野間を走る、県と地元鉄道会社が共同で運営する第三セクターの鉄道だ。一両編成の小さな列車が走っているローカル線だが、現在年間39万人が利用する人気の鉄道だ。ポスターのコピーは「ここには『何もない』があります」▼この鉄道は前身の国鉄時代から廃線の危機で、三セク移行後も大赤字を抱えていた。そこで社長の公費を呼び掛けて、09年に採用されたのが元航空会社勤務の鳥越亮氏だった▼社長に就任して間もなく、地元ボランティアが駅で観光客に「せつかつく来たのに何もないじゃないか」と怒鳴られていたそう。それを目撃した社長は、豊かな自然や情緒が一つの魅力なのだから、とあって「ここには『何もない』があります」のコピーでポスターを作った。これがネットやテレビで反響を呼び、その年の大型連休にはこれまでの10〜15倍の客が押し寄せたそうだ(Sankei Biz web 2015.2.26配信記事より)▼他にも、運転士を目指したほどの鉄道マニアでもあった社長は、「ローカル線の上を走る人に来てほしい」と現役としては最も旧式の国鉄型ディーゼルカーを走らせ、ファンを熱狂させた▼発想の転換で、「何もない」いすみ鉄道は、今や「何もない」ローカル線の聖地として全国からファンが集まる。いすみの挑戦は全国のローカル線・鉄道業界に新しい風を吹かせているようだ▼新しい学年で、これからどんな一年になるか正直不安だ。勉強や友人関係などの悩み、自分には何が出来るかと思う時もあるかもしれない▼そんな時は、いすみを見習って、発想を変えてハードルを越えていこうと思う。きつと新たな視点が見つかる。(橙)

ESS club  
Let's speak in English!  
DAY: Mon-Fri  
PLACE: 英会話室1  
Please visit our club!

空手道部  
空手道部  
初心者もお気軽に!

DANCE  
ダンス部  
初心者歓迎!

バドミントン部  
バドミントン部は火・水・金・土・日  
曜日は体育館で練習をし、  
月・木曜日は外でトレーニングを  
中心に活動しています。  
男女共に関東大会出場を  
目標に日々の練習を頑張っています!!  
バドミントン経験者やスタンス持込  
に自信がめいの人などは  
大歓迎です!!  
1度練習に来てみてください!!

卓球部  
卓球部  
初心者経験者大歓迎!

女子バスケットボール部  
バスケットボール部  
初心者経験者問わず  
募集中!!! マナーも大歓迎!!!  
いつも明るく仲良く活動して  
います! ぜひ来てみてください!!!  
来てね!!!



# これまでの実績

- ・全国高等学校総合文化祭 9年連続出場
- ・総文祭新聞部門 2016年に初の優秀賞
- ・東京都高等学校文化祭新聞部門 (過去の参加校数は150校に上る) 6回(4年連続)最優秀賞
- ・東京都高等学校文化連盟賞 4年連続 受賞
- ・大東文化大主催全国大会 (参加は100校超) 奨励賞2回 激励賞8回

# こんな活動もしました

- ・テレビ東京の番組「すなっぷ」で活動の様子が放映される
- ・世界フィギュアスケート 国別対抗戦2013から招待
- ・ラジオ「FMひがしくるめ」から取材
- ・新春駅伝競走大会取材
- ・再刊開始から200号突破
- ・東京2020公認プログラム 企画展の取材会から招待
- ・特別展「大英自然史博物館展」報道内覧会に抽選の上招待
- ・全国高等学校総合文化祭 東京公演 8年連続取材

# あなたもなれる新聞記者!



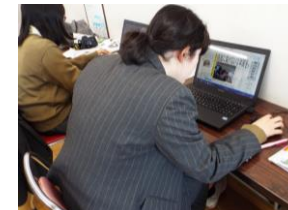
取材をする際に用いる道具

私たちがより良い新聞作りを目指して、日々健闘しています。活動を通して新しい知識や自分を知ることができ、皆さんも高校生新聞記者として貴重な体験をしてみませんか?

今年の夏も「みやぎ総文」への参加が決まっています。最近では、共同通信社を通じて2020東京オリンピックにむけた「文化プログラムプレスセンター」第1回取材会に参加しました。今年の3月18日(土)から国立科学博物館で開催されている大英自然史博物館展の報道内覧会の取材も行いました。

新聞委員会は、行事や部活の大会など錦城生の活躍を中心に高校生ならではの発想・レイアウトで新聞を作っており、企画・取材・編集・発行・配布のすべてを生徒の手で行っています。

# 新校舎7階生徒会室で待っています



企画

取材

編集

印刷配布

# 錦城高校新聞の作り方

新校舎7階の生徒会室にて、編集会議を行う。次号で取り扱う記事の内容、その担当者、レイアウト(記事、写真の配置)、発行予定日を決める。紙面づくりの全責任を負う、重要な段階だ。

新しい企画を考えるときは企画書を作る。企画をする目的・どうやって取材をするのかなどを話し合い、どうすれば生徒に新聞を楽しんで読んでもらえるか研究している。

企画で記事の内容が決まると、取材相手に連絡を取り、編集室や応接室など校内の様々な場所、時には学校外でも取材をする。ある程度記事の方向性を念頭に置いて質問を事前に用意しておくことも必要だが、臨機応変に対応する力も問われる。記事担当・カメラ担当の二人一組になって取材をすることが多い。取材メモやカメラ、腕章が活躍する。

取材を終えた記事や写真をパソコンに入れていく。文章作成ソフトで作ったテンプレート上にレイアウトをしていく作業だ。決まった文字数の記事を書きたい写真の向きや大きさの調整を行う。大変な作業ではあるが、紙面が完成した時の達成感は何にも代えがたい。校外向けに錦城高校HPに掲載するPDFファイルも作成している。

印刷を業者に任せず、自分たちで行っているのも特徴の一つ。生徒会印刷室のプリンターで、編集委員が全校生徒・教職員合わせて約2000部印刷している。クラスの人数分に新聞を分けて教室まで編集委員が届けに行く。

新聞の大会ってどうなっているの?とよく聞かれますが、実は過去一年分の紙面を提出して審査してもらっています。提出後日に通知が届き、それで結果を知ることになります。

全国大会への切符を手に入れられるのは各都道府県の代表に選ばれた上位入賞校のみ(今年の都代表は3校)。ちなみに、錦城高校は9年連続で全国大会へ出場しています!

# 編集委員、総文祭出場秘話!



錦城高校でインフルエンザが大流行して学年閉鎖まで至ったことをきっかけに、保健室の先生や錦城教員に取材した。インフルエンザについて

津田塾大学近くの上水本町交差点付近をスタートに江戸東京たてもの園入り口前でゴール

過去の錦城新聞とある錦城生が聖火リレーを走ったことを知り、当時のことを調査した。実際のリレーコースを歩き、オリンピックを身近に感じた。聖火リレーを実際に走った1回生黒沢さん、森田さん、2回生鈴木治夫さんについて調査を続けた。何か情報があれば編集室まで一報ください。(紅)

錦城高校でインフルエンザが大流行して学年閉鎖まで至ったことをきっかけに、保健室の先生や錦城教員に取材した。インフルエンザについて

錦城生から取材を頼まれることもあり、連載企画になった。錦城新聞らしく生徒全員「みんなで作る」を実現できた企画だと思ふ。(篤)

錦城高校が共学化してから20年経ったということもあり、男子校だったことを伝えることを決心。元錦城生の錦城教員や外部の方に取材をした。共学化して変わったこと、ある一方、校風など変わらなないところもあり、改めて錦城の良さを実感した。(鴉)

今回は現在も続いている連載企画や最近の特集について取り上げました。気になる方は錦城高校HPで過去の紙面を読むことができます!

錦城高校が共学化してから20年経ったということもあり、男子校だったことを伝えることを決心。元錦城生の錦城教員や外部の方に取材をした。共学化して変わったこと、ある一方、校風など変わらなないところもあり、改めて錦城の良さを実感した。(鴉)

「食い倒れ」で紹介したル・パティシエ・クニヒロのプリン

「新開委員会編集室は、現在2年生11人、3年生5人で月に2号、行事の際に作る速報版も含めると年間約30号発行しています」

「『新開委員会全員で新聞を作るわけではなく、有志の集まりである編集室が新聞を作っています』

「『活動してから一年たったけど、どうだった?』

「『でも、書き終えた時の達成感もすごいよな』

「『やっぱりいもある。記事書いたりカメラを使ったり...新鮮なことばかりだった』

「『普通に通高に通っていったら新聞書かないもん』

## 大会報告

ハンドボール部  
▽4月2日(日)  
第13回江戸川区春季ハンドボールオープン大会  
女子部 優勝  
最優秀選手賞  
森岡杏実(3日)

## 生徒会動静

4.8~4.16  
4月13日 体育学芸委員会 クラスTシャツ係  
4月14日 HR委員会 錦城祭実行委員会 中央委員会常時活動中

# 今まで行ってきた企画

小平食い倒れ(190号)

「『新開委員会編集室は、現在2年生11人、3年生5人で月に2号、行事の際に作る速報版も含めると年間約30号発行しています』

「『でも、書き終えた時の達成感もすごいよな』